

第27回 中央常任委員会 (2019年9月24日)
第14回 中央委員会 (2019年9月24日)
2019年度第1回公開全学協議会 (2019年10月2日)

2019年度全学協議会における学友会見解

別添資料

(2019年度全学協議会確認文書に向けて協議したい論点)

2019年度立命館大学学友会中央常任委員会

目次

0. はじめに	2
1. 教学施策	3
2. 学生生活の向上	5
3. 今後の学園創造について	9
4. 参考	10

0. はじめに

本文書は、公開全学協議会において学友会から提起する「全学協議会に向けた学友会見解」（見解文書）とともに取り扱う資料である。

学友会では、公開全学協議会に向けた論点について学友会中央常任委員会で検討を進め、「全学学生アンケート2019」をもとに学生の意見を集約した上で、全学協議会第1回・第2回代表者会議および各種懇談会を経て、協議したい論点を整理した。

見解文書および本文書の位置づけは、見解文書は公開全学協議会において主に協議したい論点を記載、本文書では公開全学協議会での協議に向け、各種懇談会・全学協議会代表者会議等で協議してきた論点について網羅的に記載している。本文書に記載している論点は、公開全学協議会での議論は行わないが、今後懇談会等での継続した協議を求める。

以上より、その協議結果については、第1回公開全学協議会で議論し確認された点項とあわせ、2019年度全学協議会確認文書において、議論を行った内容が反映されることを求める。

2019年度全学協議会における学友会における主要な論点は以下の3つである。

【主要論点】

1. 教学施策
2. 学生生活の向上
3. 今後の学園創造

1. 教学施策

初年次教育

補足レジュメ p20

第1回代表者会議において、初年次教育の目標およびオリター・エンターの立場については大学側の見解を確認した。さらに、学生部と学友会が共同で実施した「新入生アンケート2019」において、新入生の不安解消への支援を検討するための調査を行った。

オリエンテーション期は情報過多になるため、新入生に対して適切に情報提供を行うことが必要である。また、オリター・エンターからの情報提供は、その情報に偏りがあるため、何をどのように伝えるのか大学との連携が不可欠である。学部の特性に応じた新入生支援のあり方を学部ごとに議論する必要がある。

《別途懇談会での議論を求める事項》

- オリター・エンターの役割の再検討
- 新入生への適切な情報提供のあり方の模索

試合等参加証明書の運用

全学学生アンケート p11 / 補足レジュメ p21

《別途懇談会での議論を求める事項》

2018年度の全学協議会において「試合等参加証明書」の意義や目的を教員に周知し、運用を促進するよう改定することが確認されている。この課題に関しては、「全学学生アンケート2019」での調査結果をもとに、課外自主活動の高度化・活性化に関する懇談会、学生部との懇談会の中で問題点を共有し、今後も継続して議論を行うことを確認した。

昨年度から引き続き、試合等参加証明書の意義や目的を学生・教員に周知することを確認しているが、現状は不十分であると考え。どのように周知徹底を図るのか、議論する必要がある。

BBP の活用

全学学生アンケート p8 / 補足レジュメ p17-19

BBP (Beyond Borders Plaza) は、『2018年度BBP活動総括』および各種懇談会において、その利用状況や、行っている取り組みについては確認し、利用者の目標値を大きく上回ったことが分かった。

しかし「全学学生アンケート2019」では、BBPを「利用したことがある」と回答した学生は約30%にとどまり、「BBPを知っているが、利用したことがない」学生が約半数、「そもそもBBPを知らない」と回答した学生が、約20%と、BBPの周知に関して改善の余地は大いにある。

今後の周知方法や活用については、検討する必要がある。

教員の労働環境の改善

補足レジュメ p22

働き方改革の問題もある中で、教員が研究や講義の準備を十分に行えていない現状がある。今後の全学協議会において、働き方改革の問題と共に議論が必要な課題であると認識している。2021年度全学協議会に向けて引き続き議論を重ねていきたい。

土曜授業日・補講日

全学学生アンケート p12-13/補足レジュメ p22

本学は他大学と比較し、特に春semesterにおいて土曜日が授業日や統一補講日に設定されていることが多い。しかしこれは、課外自主活動が制限されることと同義であり、この現状に対して不満の声をあげる学生は一定数存在する。

「全学学生アンケート 2019」の結果をもとに、出席状況や学生の認識を確認し、今後どのように運用するのか、検討するよう求める。

また補講日については、成績評価に関わることは行わないことが定められているが、学生にとっては、出席を取ることが成績評価につながると考える学生も多い。一部の講義では成績評価に関わることを行っていることもあるため、改善を求めるとともに、補講に関するルールの周知を教員・学生双方へ行うよう求める。

2. 学生生活の向上

課外自主活動施設の整備

全学学生アンケート p26／補足レジュメ p29-30

「全学学生アンケート 2019」での調査により、本学学生の課外自主活動への参加率は約 70% と非常に高いことが明らかとなった。大学として正課と課外の両立を掲げた「学びの立命館モデル」を策定し、様々な助成金により活動を支援するなど、他大学に比べて課外自主活動を行う環境は整っていると考える。

しかし、施設整備に関しては問題も残っている。OIC においては団体が活動を行える施設がほとんどなく、教室を借りて活動することが主となっている。開学 5 年目となった現在も、OIC で活動を行う団体が少ないことや OIC における課外自主活動への参加率が他キャンパスに比べ低いのは、課外自主活動を行う環境の整備不足も要因の 1 つであると考えられる。

また、体育施設の整備費用に関して、体育会の団体がそれぞれの活動資金でその費用を賄っており、財政を圧迫している問題がある。この課題に関しては、課外自主活動の高度化・活性化に関する懇談会の中で問題点を共有し、今後も継続して議論を行うことを確認した。

《キャンパス懇談会・課外自主活動に関する懇談会での議論を求める事項》

- 課外自主活動の参加促進のため、学生会館のような施設を OIC に整備すること
- OIC 内の体育施設の整備
- OIC アリーナにおける空調整備・運用ルールの改善
- BKC のアスリートジムの設備更新

キャンパス間シャトルバスの運行

全学学生アンケート p28／補足レジュメ p31

キャンパス間シャトルバスは、過年度の全学協議会で導入されたもので、特に課外自主活動においてキャンパスをまたいで活動する学生にとって、重要な交通手段となっている。一方、BKC キャンパス懇談会や体育会の学生へのヒアリング等で改善を模索しているものの、学生の求める利便性の改善には至っていないと考える。「全学学生アンケート 2019」における調査をもとに、以下の点を論点としたい。

《別途懇談会での議論を求める事項》

- シャトルバス運行ダイヤの見直し
- 利用者の多い時間帯における、バスの増便など混雑改善

通学に関する課題

全学学生アンケート p29-31／補足レジュメ p32

通学に関する課題は、キャンパス特性に応じてキャンパス懇談会での議論が必要な項目である。「全学学生アンケート 2019」の結果を元に、以下の点を論点としたい。

《キャンパス懇談会での議論を求める事項》

(衣笠)

- 駐輪場への屋根の設置
- 自転車ルール変更の効果検証および実態調査
- 警備員による指導の改善
- バスの本数増加など、混雑対策を行うこと

(BKC)

- 駐輪場への屋根の設置
- 教室棟へより近い場所への駐輪場の新設
- バスの増便およびバスの遅延による遅刻対応について
- 駐輪場の整備

(OIC)

- 駐輪場への屋根の設置
- 中型以上のバイク駐輪場の設置

ダイバーシティ&インクルージョンに対応する環境

補足レジュメ p33

大学における「ダイバーシティ&インクルージョン」に関しては、第1回代表者会議を受けて学友会からの質問状を作成し、大学からの回答を得た。

ジェンダー・セクシャリティに関する相談など多様な学生からの相談への対応は、これまでの組織体制・支援の枠組みだけでは十分ではないとしており、学生部会議のもとに「性的マイノリティへの支援および多様な支援を支える体制に関する検討プロジェクト」を設置している。学友会としては、前述のプロジェクトにより、部課の枠組みを超えた対応を進めるよう、引き続き求めていくとともに、プロジェクトの検討結果を共有するよう求める。

学生窓口の拡充・学園のスマート化

全学学生アンケート p17／補足レジュメ p34

《別途懇談会での議論を求める事項》

学生窓口の拡充・学園のスマート化については「全学学生アンケート 2019」で調査を行った。学生窓口に関しては、「教室・施設予約のWEB化」について求める声が多かった。課外自主団体の教室予約は未だに紙による申請であり、他キャンパスの教室をそのキャンパスに行かないと借りられないのは、課外自主活動の足かせにもなっている。一方、研究施設や図書館など一部の予約はWEB化済みである。効率的な施設の予約・利用のため、WEBシステムを導入するよう求める。また、祝日・土曜授業日における学生窓口の開設時間について、不満の声が多かった。祝日・土曜授業日に関しても、通常授業日と同様の窓口開設時間とするよう要望する。

学園のスマート化に関しては、Wi-Fi環境の改善、大学内におけるキャッシュレス決済の導入・推進、manaba+Rのアプリ化等より使いやすい形に改善することなどについて求める声が多かった。

以上の点に関しては、別途懇談会を行い、引き続き議論を行いたい。

大学における情報宣伝場所の確保・ルール統一

全学学生アンケート p27／補足レジュメ p35-36

《別途懇談会での議論を求める事項》

学部基本棟や教室改修に伴い、団体が情報宣伝場所として利用できる掲示板の数が大幅に削減され、部員数やイベント参加者数の減少につながる可能性がある。学生の課外自主活動を支える意味でも、掲示板数の減少にかわる団体の情報宣伝場所を確保するよう求める。

また、大学内での情報宣伝に関しては、施設によって管理者が異なり、情報宣伝を行う場合のルールが不明瞭である。その結果、大学側は情報宣伝できるが学生が情報宣伝場所として利用できない所も多い。このように運用方法が定まっていないところもあるため、ルールを設定した上で統一を図るよう求める。

「全学学生アンケート 2019」では、学内のデジタルサイネージを利用したことがある学生は約15%と少なかったが、利用したいと考える学生は約半数と、一定の需要があることが分かった。特にBKC・OICではデジタルサイネージの数が少なく、衣笠で学友会が設置しているものも、学部のラウンジのみへの設置で、キャンパス内で効果的に情宣を行いにくい。学部ごとに独自のサイネージをつくったり、利用されていない屋外掲示板をサイネージに転換したりするなど、大学として整備するよう求める。

奨学金

全学学生アンケート p14-15／補足レジュメ p37

第1回代表者会議において、立命館大学の奨学金の金額ベースの規模は、日本の大学の中でトップレベルであることを確認してきた。「全学学生アンケート2019」では、奨学金の情報収集先や、どのような奨学金制度があればよいか調査を行った。現行の奨学金の受給率も踏まえ、引き続き議論を行いたい。

《別途懇談会での議論を求める事項》

- 奨学金情報・相談窓口の周知および徹底
- 成長課型奨学金の受給枠拡大
- 現行の奨学金システムの見直し

3. 今後の学園創造について

大学スポーツの高度化

補足レジュメ p48

大学スポーツは大学スポーツコンソーシアム KANSAI の創設をはじめ、UNIVAS の設立など社会的に大きく変化しようとしている。立命館大学はどちらにも加盟しており、大学スポーツを取り巻く環境は他大学と比較し、先進的であると考えられる。学友会としても今後、先進的な取り組みを行うことのできる大学を共に目指していきたいと考える。

第1回代表者会議において、伊坂副総長より「4年間に1度は自分の大学のチームの応援、あるいは試合を観る学生を増やしたい」という発言があった。また、課外自主活動の高度化・活性化に関する懇談会の中でもこの課題について確認した。学生との情報共有を行い、大学スポーツの高度化に向けて、どのような環境が必要なのか、今後も継続して議論を行いたい。

4. 参考

2019 年度全学協議会に向けた各種懇談会等の実施状況

5月9日	全学協議会に向けた学友会・学生部懇談会
5月28日	学友会との課外自主活動に関する懇談会
6月5日	学友会・院生協議会連合会・教職員組合へのRS学園通信の説明会
6月14日	学友会と教学の質向上等に関する懇談会
6月18日	学友会との学費・財政に関する勉強会
6月20日	第1回全学協議会代表者会議事務折衝
6月25日	キャンパス環境に関する懇談会<BKC>
6月25日～7月20日	学友会・学生部「新入生アンケート2019」共同実施
7月3日	第1回全学協議会代表者会議
7月11日～8月4日	学友会「全学学生アンケート2019」実施
7月19日	(書面)第1回代表者会議を受けた学友会からの質問等への返答
7月29日	学友会との課外自主活動の高度化・活性化支援に関する懇談会
8月6日	学友会と教学部・国際部との懇談会
8月27日	学友会との財務部懇談会 学友会との教学部・学生部懇談会
9月11日	第2回全学協議会代表者会議事務折衝
9月12日	立命館生活協同組合との懇談会
9月18日	第2回全学協議会代表者会議
9月25日	2019年度第1回公開全学協議会事務折衝